

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472800374		
法人名	有限会社 三輝		
事業所名	グループホーム 加美		
所在地	宮城県加美郡加美町上狼塚字東北原12番地238		
自己評価作成日	平成24年11月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣や地区の方と日頃から挨拶を交わすなど交流し、地域の行事参加やお便りの各戸毎配布、お知らせをもって入居者と行事参加を呼びかける等、地道な活動から地域との馴染みの関係を築いてきている。ホーム内は季節の飾りや外出の写真、作品などを飾り明るく楽しい雰囲気づくりをしている。誰もが過ごしやすい共有スペース作りを心がけ、入居者・ご家族・来所者が居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。外出は入居者の意見を取り入れ馴染みの場所から遠出まで、計画を立てて出かけられるようになっている。入居者3名に対し2名の担当職員をつけることで、個別対応を充実させている。ホームのお便りは担当スタッフが常に工夫した内容で作成している。小学生対象の認知症講座にも積極的に出向き、地域との支えあい、啓蒙に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅や畑のある地域に開設9年目を迎える1ユニットのホームである。地域の認知度も高く地域行事のお誘いがあり、またホーム行事へのお誘いもしている。近隣にも配布しているホームのお便りは手描きで入居者は似顔絵で表現された個性的なお便りである。今年度見直したホームの理念は「人と人の係わり合いを大切にしながらも、自分らしさを出せる環境で地域や自然と触れあいながら、食べていきいき楽しい毎日と互いに思いやり、不安のない生活を支えます」で職員全員の思いを集約した。独自の「気づきシート」を使い入居者をチームケアで支えている。町の職員が2名外部評価に立ち会うなど町との連携も取れ、町の支援が感じられる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年11月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:加美)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は年に1回3月に全職員がアンケート形式で見直し、その中から決定したものをホーム内2ヶ所に掲示。ミーティング後に読み上げ確認し、日々の業務に取り組んでいる。	年度末に職員全員が、自分が年齢を重ねたとき、誰とどこでどんな事を楽しみに、どんな生きがいを持ち、どんな暮らしをしたいのか？というアンケートに記入してもらい、日頃のケアと重ね合わせ理念を作成した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民と毎日の挨拶、野菜や花のやり取りがある。お便り(年3回発行200部)を町内会(区長さん)を通じて戸毎配布。地域の各種行事(運動会、コミュニティー祭り)に参加したり、ホームの行事(ひな祭り、七夕会、芋煮会)に参加している。	ホームのお便り:輪・和・笑(わわわ)は医院・社協・町役場・近隣等に配布しており、ホームを身近に感じてもらっている。近隣の方にホームの畑を耕していただいたり、コミュニティー祭りにちぎり絵や刺し子など入居者の作品を出展し、参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族、地域が参加できる行事(ひな祭り、七夕会、芋煮会)の実施。運営推進会議。キャラバンメイトの講習を受けた職員(3名)が地域のキャラバンメイトの講師として出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(年6回)開催。家族、区長さん、民生委員さん、地域包括職員、近隣住民に呼びかけ、議題は災害対策、医療連携、交流会など。参加メンバーから意見、質問等いただきサービスの向上に活かしている。外部評価の結果も家族及び委員に報告している。	昨年度は震災の影響も有り5回の実施であった。包括職員が5回参加している。毎回ヒヤリハットの報告・検討をしており、委員から誤薬防止改善策としてトリプルチェックの提案があり、実践している。会議への家族参加が増えるよう工夫して行く意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	お便りを配布。介護保険(今年の法改正についてなど)や防災について町から助言を受けている。地域包括支援センター主催で行われた小学生対象の「認知症講座」の講師として出向いている。	年1回の実地指導や毎年、外部評価の立会いもされており、町職員との協力関係がうかがえる。すぐ近くの小学校にも「認知症講座」を持ち、交流を進めたい意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、出入りが自由になっている。入居者さんの状態を把握し見守り対応している。外出しても近隣住民さん地区担当の警察官から連絡、声がけしてもらえる関係を築いている。身体拘束をしないケアについて勉強会をひらいたり、その都度話し合うことで工夫している。	年1回は資料や言葉掛けのケースなどを基に内部研修をしている。散歩や行事で近隣の方にお顔を覚えてもらい、連絡がいただけるようにしている。「車椅子に座りっぱなしも拘束？」という話題になり、本人の思いを大切にしながら、横になっもらうなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ポスターの掲示、虐待防止についてのパンフレットや資料を常に閲覧できる場所に置いている。勉強会も行い見過ごされることがないように注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットや資料を常に閲覧できる場所に置いている。勉強会にて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、家族に十分な説明をし、話し合い、疑問、不安の解消に努めるとともに同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方々とは、日頃からのコミュニケーションを密に取ることで、行事食や外出など意見を反映させている。家族からは来所時に話を聞き、オムツの助成についての相談を受け町と相談するなど対応している。ホーム以外の相談機関についても入居契約時に確認している。	入居費用は家族がホームに持参し納める様になっていて、時間も5時までと決め、出来るだけ入居者の顔を見て、日頃の様子・変化を見ていただいている。その時の職員と家族とのコミュニケーションも大切にしている。入居者の希望や思いは普段の会話から紡ぎ出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、ミーティングでその都度聞く機会を設けている。今年3月と9月に面談を行い9月に行われた面談から、掃除と業務のバランス、食事についての意見・提案があり、その意見提案を反映させている。	食材宅配のメニューを採用しているが、週1回入居者の希望メニューを取り入れている。居室の掃除はケアのバランスをとりながら担当が毎日行う様にする事。管理者は職員の意見を取り入れ、日頃のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、各件の整備に努めている	資格取得への助成、資格に応じた資格手当での支給及びベースアップをしている。処遇改善加算を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に研修の機会があり、キャラバンメイト、グループホーム協議会の研修、地域包括主催の研修会などに参加している。参加者は復命書にて報告し会議時に発表する事で、全職員の学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO宮城県認知症グループホーム協議会に加入し、全職員が研修会、交流会、実践報告会等に参加している。参加者は復命書にて報告し買議事に発表する事で、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問、実態調査で状態や状況の把握に努めている。本人の負担にならない程度に関わりを増やし安心していただけるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問、実態調査で状態や状況の把握に努めている。できるだけ時間を持ち耳を傾けている。本人との関わりや病院対応について質問があり、説明し理解していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴、認知症状、身体状況を確認し、その人に適したサービスを見極め、相談対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士健康を気遣う場面があったり、一人ひとりの得意とすることを引き出し、家事や畑、行事やレクリエーションを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ひな祭り会、七夕会、芋煮会など季節の行事参加を手紙で呼びかけ、本人と一緒に過ごし楽しんでいただいている。対応に悩んだ際なども相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、知人に会いに行ったり、長年住み慣れた地区へ出掛けている。墓参りや敬老会参加も行っている。当ホームも開所から8年目となり、近隣住民とも馴染みの関係となっている。	自宅のある地域の友人宅にお茶のみに出かけたり、家族と墓参りに出かけ、外食を楽しんだりしている。友人が訪ねてくれる事もある。近隣の方には畑を手伝って貰ったり、お茶飲みの声がけもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がパイプ役となり、家事やレク行事などを一緒に楽しみながら関わり合い、よい関係作りができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の状況や必要に応じて対応している。入院した入居者の家族が買い物、洗濯の対応ができない時など、ホームに連絡をもらい対応していた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士の会話やテレビやお茶を飲みながら寛いでいる時に話している内容を記録したり、家族から話を聞く機会を設け意向の把握に努めている。外出や外食、趣味活動の継続(刺し子)を行っている。	入居者一人ひとりの気付シートが有り、会話の中や様子を記録して、本が好きそうな方を図書館にお連れしたり、紙芝居を借り皆さんに読んであげたりしている。気付シートは全員が目を通し個別支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後、本人・家族より聞き取りを行い把握に努めている。日常の会話からわかることもあるため、普段のコミュニケーションを密に行っている。昔の話や写真(回想法)を活用することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者3名に2名の担当職員をつけ、小さな変化も見逃さないようにしている。情報は全職員で共有。センター方式や気づきノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師などの意見を取り入れ、介護記録をもとにケア会議で話し合い作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、現状に即したものになるようにしている。	毎月のケア会議や3ヶ月ごとのモニタリングを通してケアの見直しをしプランに反映している。日々出来ることが少なくなってくるが、本人のできる事(洗濯物たたみなど)を継続していけるように支援している。	ケアプランの見直しを、入居者、家族に説明の上、継続であっても同意を得ていただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や気づきノートの活用で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の通院介助、外出・外泊、ご法事、行事食、趣味活動など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、きょうだい、子供、近隣住民、踊りのボランティア、区長さん、民生委員、地域包括職員、警察官、小学校、公民館、消防署など「地域となじみの関係を築き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、従来からのかかりつけ医、または協力医となっている。認知症の症状によって担当医から専門医を紹介していただく事もある。通院は初回と必要に応じて家族に付き添いを依頼している。職員通院介助の場合は受診時の情報を家族に伝えている。	かかりつけ医は1名、他、協力医を主治医としている。認知症外来に通院する方もいる。定期的な受診はお便りと一緒に書いて報告し、それ以外は家族に受診する旨の連絡を入れ、受診後電話で報告している。家族は必要に応じて同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師、訪問看護師がいない。かかりつけ医の看護師に随時連絡相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	入院時、看護師・医師に情報提供するとともに、治療方針等の説明に家族と一緒に立会いその都度看護師より状況を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、ホームでできることを家族に説明の上、意思確認をしている。現況では、ほとんどの家族がホームでの看取りを希望しているが、24時間協力を得られる医療機関がないため重度化した場合、その都度本人、関係者(家族、医師、職員)で話し合っている。	看取りの指針、意思確認書の作成はあるが、家族からはまだ意思確認書は頂いていない。訪問看護、医療機関との連携がまだ出来ておらず、重度化した場合、関係者の話し合いで対応している。今後医療連携体制を整え、ターミナルケア等の研修を重ね、看取りを前向きに取り組む意向を示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを作成。職員一人ずつに配布している。避難訓練や勉強会、ミーティングで対応の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、スプリンクラーなど設備も整い、消防から指導をいただきながら訓練を行っている。震災を契機に非常災害時のシフトの見直し、食料や備品を見直し改善している。避難訓練だけでなく、通報訓練の回数を増やしたり、地域住民の参加も促していく。	年2回(夜間想定1回)消防署立会い1回で実施している。防災設備の定期点検は年2回実施している。通報訓練は消防署の協力を得、全員あわせて事前に情報を伝えられるように訓練していくとしている。備蓄の中に発電機を揃え災害に備えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや行動を否定せず受け入れるよう努力している。ミーティングや会議で取り上げたり接遇について学び対応している。トイレ誘導や介助の声がけはお手伝いさせていただくという気持ちで特に配慮している。	耳の遠い方には大きな声で話すのではなく、近くに行き話したり、物取られ妄想の方には皆で声掛けを統一、本人の混乱を少なく、家族が預かっているとの電話協力を得たりしている。トイレも本人の意思を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にゆとりを持って接し、起床から食事、入浴の時間はもちろん、服選びなど自己決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の様子、介護記録から本人ペースを把握している。本人の話に耳を傾け、自然体で過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の伸び具合を見て(2~3ヶ月に1回)美容師に出張カットを依頼。顔につけるクリームや好みの服を購入する際は一緒に出かけ選んでいただくなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材宅配業者を利用し、献立は業者の栄養士が作成。畑から収穫した野菜や差し入れていただいたものを取り入れたり、行事食や希望のメニューの提供、外食、誕生日のケーキやおやつを一緒に手作りし一緒に食べている。	希望のメニューはテレビや雑誌、広告などを見て入居者が決めメニューに反映させている。外食はラーメン・おもちなどを食べに出かけている。入居者はソフトクリームが好きで、良く出かけてる。収穫した食材でのおやつ作りもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養バランス、水分量について記録により把握し、状態に応じて刻み、ミキサー食、スプーン使用など対応している。必要に応じてDr.に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回一人ひとりに対応した口腔ケア(義歯洗浄、ブラッシング、口腔清拭、お茶うがい)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別誘導を心がけている。尿意を訴えない方にもパターンを探る事でトイレ利用を続けている。排泄回数が多い、少ないなど原因の把握に努め対応している。浴室の隣にあるトイレは脱衣場となっており、失敗による恥ずかしさや不安感を軽減するのに役立っている。	排泄チェック表の活用もあるが、時間での声かけ誘導だけでなく、トイレに行ける方は本人がトイレに自発的に行っている時をチェックをし、そのパターンを読み取り見守り支援をしている。夜間の誘導は起きてくる方などその方に合わせて個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスを考えた食事の提供、水分摂取を促している。Dr.に相談し一人ひとりに合わせた薬による排便コントロールだけでなく、散歩や体操、牛乳をすすめるなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、2日・3日おきなど、本人の希望に合わせて入浴できる。入浴しない日は、手浴・足浴・清拭などで対応している。必要に応じて、入浴台や簡易リフトを使用する、2人介助など安全に配慮。行事としてゆず湯なども行っている。	午前、午後を通して希望の時間に入れるようにしている。入浴しないときはフットケアとして足浴をしている。入浴拒否のある方は声かけを変えたり、日をずらしたり、時には大好きな歌を歌いながら入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう体調をみて散歩、体操、日光浴をすすめたり、入眠時間が遅い入居者とはテレビや新聞をみながらお茶を飲んだり、趣味活動など自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受薬後、申し送りにて情報を共有。薬のファイルに個人毎のお薬情報を綴じ、いつでも確認できる。毎食前に薬を準備し、服薬直前にダブルチェックし本人に手渡し飲み込みまで確認している。必要に応じDr.に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴、記録などの情報をもとに対応している。掃除、洗濯、調理などの家事や、ぬりえ、歌、貼り絵、カルタ、畑仕事など楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の思いで作りとして行事、レク担当者が年間計画をもとに、花見や遠足、夕食や買い物、散歩など積極的に支援している。個別に家族との外出、夕食にも対応している。	外出(ドライブ)を楽しみにしている。地域資源を利用して、季節の花見(桜、梅、菜の花・芍薬・はす・ヒマワリ・コスモス・紅葉・白鳥)や施設見学に出かけている。出かけた時の個人写真アルバムを作成、時々見返している。畑までの散歩も楽しみで野菜やお花の成長を見ている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望によりお小遣い程度の金額を自己管理している入居者もいる。本人の希望に応じて買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、ご家族に年賀状を出している。電話を希望される方には、職員がとりつぎ安心できるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節、換気をこまめに行い不快感がないように努めている。壁には、歌の歌詞や季節の飾り、外出の写真や作品などを飾っている。共有スペースは広く行き交いやすいように工夫している他、こまめに掃除を行い清潔保持に努めている。	事務所、食堂兼居間、台所が隣りあわせで、入居者の見守りがし易い造りである。レクリエーション担当と一緒に作った季節の貼り絵やカレンダーなど手作りの温かさがある。行事の写真が貼ってあり家族が行事の様子が見られるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではみんなでテレビをみたり、歌をうたったり、ソファでひなたぼっこしながら談話、座敷で昼寝など一人ひとりに合った過ごし方を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室ほぼ同じづくりの畳部屋となっており、使い慣れたベッドやタンス、テレビやテーブルなど持ち込んでいただいたり、位牌を持参し毎日仏さんのお世話をしている入居者もいる。壁には家族の写真やホームで撮った写真などを飾っている。	入り口は写真のある人、名前が書いてある人など思い思いのデザインでお部屋がわかるようになっている。お部屋は畳みに障子で和風の造りで畳スペースは上靴が脱げるようになっている。趣味で作った刺し子の作品が飾られたり、家族の写真が沢山あり温かい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、似顔絵をつけた名札を貼ったり、立体的に名前が見えるように工夫したりしている。トイレも見やすい表示に変更。共有スペースは誰もが過ごしやすいよう配慮している。		